

もも・ネクタリン特報

H29. 3.17 No.1

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部会

もも・ネクタリンの発芽は平年並みと予想されますが、今後の気象次第では生育が進む場合も考えられます。休眠期防除が遅れないよう、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等の準備は段取りよく進めましょう。

(参考：過去4カ年の発芽日、平岡地区)

白鳳	平年	H28	H27	H26	H25	H24
発芽日	4/1	3/30	3/31	4/2	3/28	4/8



【休眠期（発芽前）の散布】

◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地では、休眠期の防除を徹底しましょう。特に、薬剤のかかりにくい部分（樹の上部や先端）に多く発生が見られます。薬剤散布時は樹全体に薬液がかかるよう、たっぷりと散布しましょう。

◎トレノックスフロアブル体系と石灰硫黄合剤体系の2体系を記載しています。

下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施下さい。

<u>トレノックスフロアブル 体系</u>	散布日 月 日	散布量 %
散布時期：発芽前(3月下旬)		
散布薬剤	水	98%
	スプレーオイル	2%
	トレノックスフロアブル	200ml
対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類		
散布量：10アール当たり		300%
【注意事項】		
①	トレノックスフロアブルに代えて、キンセット水和剤80の1000倍（開花前まで、5回）でもよい。	
②	混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ トレノックスフロアブル	

<u>石灰硫黄合剤 体系</u>	散布日 月 日	散布量 %
散布時期：発芽前(3月下旬)		
散布薬剤	水	90%
	展着剤	10ml
	石灰硫黄合剤	10%
対象病虫害：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類		
散布量：10アール当たり		300%
【注意事項】		
①	カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル50倍を合剤散布の5～6日前に単用散布する。	
②	石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。	
③	混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ 石灰硫黄合剤	

【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① **カイガラムシ類**の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。（または、被害枝の切除）
- ② **せん孔細菌病**発生園は、開花5～6日前にキンセット水和剤80の1000倍（開花直前まで、5回）を特別散布する。
* 枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ **コスカシバ**の発生園では被害部の樹脂を取り除き、ガットサイドS1.5倍液(30日前、1回)を樹幹部に塗布、または、開花期までにフェニックスフロアブルの500倍（発芽前～開花直前まで、1回）を樹幹部に散布する。

裏面も必ずご覧ください

【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発地域では、以下の事項にご注意ください。

①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）

*薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるため、特に凍害が心配される場合や6～7年生までの若木のみ除去を遅らせる。

②排水性の悪い園地では、暗きょや明きょ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えに努める。（定植方法は下記参照）

③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等で緩和に努める。

【苗木の植え付けについて】

①植え穴は苗木の根の2倍の大きさで、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。

*ユーキリン(20kg : 3,809円)、もみがらくん炭(300 : 496円)、エアープイント(18kg : 529円)は、営農センターにて取り扱っております。

*化成肥料を施用する場合は、定植後とする。多量の施肥は根をいためる場合があるので注意する。

②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（3月下旬～4月上旬に定植する。）

③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。

太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。

土をかけたら、苗木を軽く持ち上げるようにしながら足で軽く踏みつけて、たっぷり灌水を行なう。

④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

⑤苗木は支柱を添えて固定し、揺れを防ぐ。

⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。

